



埼玉県舞踊協会ニュース

埼玉県舞踊協会
NO.43

Saitama Dance Association

発行所：埼玉県舞踊協会
発行者：中村 友美
埼玉県さいたま市浦和区東仲町 1-16 鳥昇ビル 3F
TEL:048-882-7530 FAX:048-882-7549

ダンスセッション2017

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール



「Channel」



「VENUS」

©スタッフテス

『半世紀を超えた一歩』

埼玉県舞踊協会会長
中村友美

埼玉県舞踊協会は昨年度創立50周年を迎え協会主催公演他行事に祝50周年を掲げ皆様のご支援、ご協力を賜り無事盛会に終えることが出来まし

ダンスセッション2017を終えて

窪内絹子

今年も、さいたま芸術劇場にて無事にダンスセッション2017を終えることが出来

振付を担当して下さる先生方への依頼から始まり、オーディションにより選ばれたクラシック21名、モダン24名が先生と一体となり本番に向かって行

クラシックの篠原聖一先生は2016年10月から振付に入

日してくださり1月5日から

取り入れねばなりません。

今年度一番の行事、第50回埼玉県舞踊コンクールの要項は皆様と出場者のご要望を取り入れ大きく改善をいたしました。次に続くステージ、コレオグラファーの目、ジュニアフェスタ、バレエ・モダンダンスフェスティバルに於いても担当理事が検討審議を重ね改善を試みております。

協会発足からの目標であるバレエとモダンが両輪となり融合し活動するを胸に皆様と共に歩み続けたいと思いま

振付けに入っていました。本番が2月5日です。でちょうど1ヶ月での振付作業となりま

リハ・サルの条件として、朝から夜まで振付家と共に過ごすという事は日本ではなかなか難しく、仕事をしながらの人や教

の様に時間を作るのが一番の課題となりました。しかし、本

打ち上げでは、各出演者にそれぞれの想いがあったのでし

このダンスセッションはさい



コレオグラファーの目 vol.15

～足袋nce@能楽堂「和とモダンの競演」

「より〇〇」を求めて

コレオグラファーの目vol.15 足袋nce@能楽堂 「和とモダンの競演」

ダンスセッション2017の公演を終えて

振付 篠原聖一

私にとって初めての機会を与えていただき埼玉県舞踊協会の関係者の皆様に感謝をいたしま

重ねられ、自分自身公演を企画してあり、大変であったであ

この公演は、費用を掛けずに作品を発表する場を、若手舞踊家に提供しようという目的で始まったダンスパフォー

この公演は、(費用を掛けずに作品を発表する場を、若手舞踊家に提供しようという目的で始まったダンスパフォー

この公演は、(費用を掛けずに作品を発表する場を、若手舞踊家に提供しようという目的で始まったダンスパフォー

この公演は、(費用を掛けずに作品を発表する場を、若手舞踊家に提供しようという目的で始まったダンスパフォー



川加年砂作①藤井香
麻里彩漠のシリア
子小藤井彩

「より〇〇」を求めて
コレオグラファーの目vol.15
足袋nce@能楽堂
「和とモダンの競演」

ダンスセッション2017
の公演を終えて
振付 篠原聖一

私にとって初めての機会を与えていただき埼玉県舞踊協会の関係者の皆様に感謝をいたしま

重ねられ、自分自身公演を企画してあり、大変であったであ

この公演は、費用を掛けずに作品を発表する場を、若手舞踊家に提供しようという目的で始まったダンスパフォー

この公演は、(費用を掛けずに作品を発表する場を、若手舞踊家に提供しようという目的で始まったダンスパフォー

この公演は、(費用を掛けずに作品を発表する場を、若手舞踊家に提供しようという目的で始まったダンスパフォー

彩の国さいたま芸術劇場での競演 バレエ・モダンダンスの会
平成29年度
第44回ステージ I
舞踊界さいたまを目指した創造性豊かでフレッシュな舞台空間にご期待ください。

次代のすぐれた舞踊家育成を目指した研究発表
参加者募集!!
3分～7分の作品
会場/彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
日時/2017年9月9日(土)・10日(日)

作「蒼歴」谷乃梨絵、小川麻里子
③上田仁美作「秘する花」笹村泉
④小林和加枝作「あずみ野の風と共に」小林和加枝、荻野陽子、熊木梨乃
⑤文月玲作「こころ」文月玲
⑥佐藤優子作「藤浪今咲きにけり」佐藤優子
⑦上田仁美作「3つのダンス」中村友美、幕田晴美、上田仁美
⑧金森みずほ作「灯」板垣明日香、ただ有里、望月彩香、金森みずほ
⑨江積志織、高橋純一、江尻美由紀作「つなぐ」江積志織、高橋純一、江尻美由紀
⑩狂言師 飯田豪、(ダンサー) 藤井彩加、江積志織、小川麻里子、榎川真理子、笹村泉、高橋美喜子、谷乃梨絵、幕田晴美、若野信子

※狂言体験・参加者募集！
ワークショップ「狂言「首引き」」
(講師：深田博治) 二〇一七年八月二十八日(月) 午後七時から八時五〇分。武蔵浦和コミュニティセンター・多目的ホールにて。開催場所が前記のように変更されました)

コンテンポラリー作品・狂言出演ワークショップのお申し込みは Fax:048-866-7366
e-mails:aidance_work@yahoo.co.jp
※「コレオグラファーの目」発足の志：①若手舞踊家支援のため、費用を掛けない会にする。②建物自体に美が内在し、質の高い創作を目指す空気感のある場で開催する。③異ジャンルのアート、アーティストから刺激を受け、成長できる場にする。

藤井 香記

前号でご紹介が出来ませんでした、「第43回ステージ1」公演の舞台写真を掲載致します。

「即興タイム」

STAGE1
第43回 ステージワン
彩の国さいたま芸術劇場
小ホール
2016年9月3日・4日

「桃色の絨毯」
「春の小夜」
「LINE」
「Circumstance」
「冷たい皮膚」
「幸せな回遊魚」
「かぜのように、ゆきかうんだね」
「花は揺れ闇に輝き」
「変・新・化」
「推薦作品・満月の奥」
「Heritage」
「乾湿計」
「ひとときの夜明け」
「woman」
「それでも僕は飛んでみる」
「灯蛾」
「Freedom」
「キエナイオモイ」

50年の回顧は、夢と感謝と駆け足の日々

名誉会長 藤井利子

国が中央政策から地方へ目を向け出した昭和41年末から、県民舞踊文化の振興を図ろうと、埼玉県舞踊協会設立への夢を持つ仲間が盛り上がり、昭和42年、代表して藤井公氏と津田郁子氏が手分けをして、県内舞踊家へ声掛けに歩き回り、同年8月、20名の会員が集い、県舞踊協会の発足させた。同年11月第一回バレエフェスティバル、43年第一回埼玉舞踊コンクール(埼玉全国舞踊コンクールとなる)、44年芸術舞踊鑑賞会、46年県芸術祭公演、49年舞踊大学講座開講、第一回ステージ公演、57年全日本創作舞踊大賞選考フェスティバル(昭和60年より国際創作舞踊コンクールとなる)等々、次々と事業を立ち上げ、特別企画公演や、埼玉県国民文化祭では、全会員と生徒達の協力を発揮した。又、埼玉に芸術劇場の建設を、いち早く運動を起動させ、署名運動で集まった膨大な署名の束と嘆願書を持って、陳情訪問、その後藤井公氏は、建設に向け委員の一人として関わった。協会も徐々に会員が増え、当初7名の理事も改選を経ながら人数を増やし、各部に担当理事を配置する組織となつて行った。35周年の式典の日が鮮やかに思い出される。

此の度広報部山本教子氏より、50周年の思い出を！と原稿依頼を受け、溢れる思い出に浸りながら、37年間藤井宅が事務局で、総務に当たっていた私の水面下(会員の目にふれない)を、二つのコンクールに絞って、浮かぶように綴らせて頂くことにした。資金ゼロで出発した協会は、事業支出の赤字を常に抱えていて、重責に潰されそうになりながら、ひたすら胸に夢を持ち、皆で必死に頑張るしかなく、事務所を借り、諸経費、事務員日当を支払う余裕はななく、事務所は夢の又夢であった。藤井公氏は協会の仕事に

対して公私混同を嫌い、自分の責任を貫く厳しい姿勢を持っていたので、私も担当する仕事は最後まで責任遂行を果たすことを学ばせてもらうことが出来たと思う。

埼玉全国舞踊コンクール

コンクール会場が定着する以前は、1年前の劇場抽選から始まる。1回で決まることはなく、手分けして2劇場で抽選。劇場確保が第一の難関。後援申請は、県関係、新聞社関係すべてお尋ねしてお願ひしていた。(途中新聞2社は後援を取り消している)各位の賞状や楯は電話を受けてから予定。各、組め取り日が区々で予定を組めないのが難！終了報告まで各所へ4~5回は足を運ぶ。藤井は舞踊と教員の二足の草鞋だったので、平日は朝7時半には出勤する。カーボン紙を挟んでの提出書類や、ガリ版でのプリント作りは、夜の空き時間にこなしていたが、コンクール受付期間は特別の忙しさ。朝早くから夜中まで電話が鳴り、応募持参の方もあり、書留郵便は日に5~7回。到着順に番号をふり、現金確認、計算が合わない時は即電話確認。部毎の一覧表に応募記入を全て書き移す。(違筆、走り書きで判読できない)字があり電話で問い合わせる)各県の参加数を記す(応募数が増大してからは、会計や担当理事が交代で手伝って下さった)。締切日は夜12時前には必ず行きます。電話も入り到着待ち。毎朝一番に前日分の現金を預けに銀行に通ったり、後日の用心の為に、日誌は些細なことでも記していた。出場順番の抽選日は、会議で決まっていた会員がお手伝いに集まってくる。準備をしておいたプリントや、出場番号の紙を封筒に入れるまで御協力頂き大助かり。6部門あり、宛名と出場者名、番号が違つては一大事。矢野氏松崎氏が遅くまで残つて再度の確認を下された姿が思い浮かびます。楯の発注、賞状書きとの打ち合わせ、各種受取りや持参の準備期間は慌ただしい。(印刷発注や校正も

印刷屋泣かせで、訂正が多かった！)

グリーンと応募数が増えた頃、理事会で若松氏が予選の1分審査(成人2分)を提案され、実施に踏み切り、その後2000曲以上の応募が続き、時間短縮で乗り切ることが出来た。(時間短縮の不評は伴いました)

初期の集計は数人でソロバン。公表一覧表も、マジックで書き入れて行った。表彰式の時間は、私は10円玉をいっぱい持つて公衆電話へ。速報待ちの新聞社に、事前に届けてあるプリントを見て頂き、入賞6部門を伝達。(高校野球が紙面をしめる頃から速報はなくなった)

会長が津田会長に移る頃、現在の事務所(事務局)に移り、近年はホームページが窓口となり、事務局新野久美子氏に働いて頂き、スピードと努力は緩和されたが、昔も今も事務量の多さに変わりなく、会計と総務は年間全ての事業に携わっており、特にコンクールは終了報告まで気が抜けない。そして担当理事の運営のお力、開催期間中役割を担って下さっている会員の皆様の総力で乗り越えてきたコンクール、今年も50回を迎えます。

埼玉国際創作舞踊コンクール

夜明け前の3時頃電話で飛び起きると、国の判別できない言葉が聞こえる。海外募集を請け負って下さっていたアン・クリエティブの電話番号を一方的にお伝えして電話を切る。事務局へ直接問い合わせる。電話もあり、語学力のない自分を恥じるばかり。ビデオ審査の予選が通り、決戦出場連絡済みの国から、「ビザが自国でとれない。日本で至急とってください」と期日ギリギリの電話を受け、大使館に駆け込むことも幾度かあり、窓口の悠長な対応に必死の説得！参加の瀬戸際が、私の肩にかかる厳しい時間との戦いだ。又、国によって異なる驚きで「化粧道具が劇場にない」と云われ、タクシード急ぎ帰り、私の道具一式を届けたりハーパーOK!2グループを同じ楽屋に割り振った折、同

じ国が一緒では困ると苦情が出て、本番は楽屋を変えたことも。海外審査員のお二人が、接触を避けている様子で、このままでは交流にならないと感じ、終了後お二人を近くの温泉風呂にお誘いして、御一緒に湯につかり、ゆかたで食事をしながら料理の話で盛り上がりながらの時間を作らせて頂いたことも！(ポケットマネーで御安心を)各国チームがホテルに到着した時、宿泊・食費・国内交通費の契約代金を全員に支払つてあったが、落選した海外チームが「賞金で帰りの旅費と来日した帰れない」と泣きつかれ、契約外のことでも、予算も無く、大使館の電話番号をお教えしたが、私まで不安で暗い気持ちで何日も引きずってしまつた。此の事業は、賞金付きであり、彩の国芸術劇場の共催で、劇場提供があったり成り立した事業。隔年開催の20余年、資金繰り成らず幕を閉じることとなったが、刺戟を受けると、鑑賞眼を高め、交流の素晴らしい事業であったと思つた。その後「ダンスセッション」として、国際交流もふまえて、意欲的な企画で未来に繋いでいく姿勢で現在も頑張っている。半世紀の活動の礎が、厳しさを増している今の時代を、たくましく生きていく支えとなれまう様、祈る気持ちでいっぱいです。

最後にになりましたが、協会設立の当初からお励みしてくださり、お支え下さった故村松道弥氏、故服部智恵子氏、故桜井勤氏、故早川俊雄氏、故内正夫氏、山野博夫氏、うらわまこと氏、故福田一平氏、故藤井修治氏、諸井誠氏、橋秋子財団、コンクールに御審査下さいました舞踊評論家、舞踊家の先生方、スタッフの方々、他多くの方々、心からの感謝を捧げます。又、設立から協会を背負って下さいました故藤井公氏、故間瀬玉子氏、療養中の津田郁子氏、故若松美黄氏、永年貢献され、近年引退された佐多達枝氏にも、50周年の御報告と、心からの最敬礼を捧げさせていただきます。

第50回 バレエ・モダンダンスフェスティバル 2017.3.19(日) 川口リリアメインホール

趣向を凝らした作品、元氣な子供たち、舞踊評論家 うらわまこと

創立50年を迎えた埼玉舞踊協会。その事業の1つが子どもたちによるバレエ・モダンダンスフェスティバル。協会創立時に始められ、今回第50回、12団体約400名が参加した。子どもたちという、幼児から中高生まで幅広い。多くの団体が幼児、児童、ジュニアなど年代別にグループ分けし、それを一つのダンス作品に構成し、あるいは組曲的に構成している。また、物語やドラマの役や状況に合わせて年長、年少を割り振つたものもあり、それぞれに趣向と工夫を凝らした作品作りで興味深い。

作品はまず、山口弓貴子がポアントの年長者を芯に、全員を年代別に構成してまとめ、降りしきる雪の情景を巧みに描いた「Shower of Snow」。上原尚美・藤井香は、料理人、鶏などの食材、お客様を年齢にあわせてはめ、奇妙で楽しい雰囲気を実現した「インドの不思議なレストラン」。和泉伽甫を登場させて賑やかに盛り上げた誕生日のお祝い、「ガーデナーパーティー」。照明を活用して、ゴウモリの大小の群れを組み合わせ、暮れ行く刻の生感を描き出した小林和枝の「洞窟の仲間」。芳賀のぞみは、可愛いバレエ、コンテンポラリー、民族舞踊、そしてパッパによる古典的なバレエと、タイプと年齢層の異なる作品を並べる。吉田久木子は、天空の星たちの時の流れのなかに、赤い紐を利用して旅や人々の生活、関係を描き出した「奇妙なとき」。後半は、魔法の宅急便の曲により、4つのグループがそれぞれ年代にあわせて踊り、全員で賑やかに終った窪内絹子の「子供の情景」。原島マヤは、年齢の異なる子供たち、とくに2人の幼児を巧みに配置して、憧憬と思い出を鮮やかに表現した「ひだまり〜遠い記憶」。川

2018 伸びゆく彩の国さいたまの子どもたちによる 第51回 バレエ・モダンダンスフェスティバル 2018年3月に開催予定 是非ご参加下さい! 会場/埼玉会館大ホール 主催/埼玉県舞踊協会

協会員催し物のご案内 2017年4月~10月

お詫びと訂正 前号で掲載いたしました、前会長藤井利子先生の肩書きを、舞踊評論家といたしました。舞踊家 藤井利子先生です。お詫びして訂正させていただきます。